

ひがしの

働き者であること



校長 岩井 裕美

子供たちが心待ちにしているクリスマス、冬休み、そしてお正月が間近に迫ってきました。12月に入り、急に刺すような寒さになってまいりましたが、皆さまお変わりなくお過ごしでしょうか。どうぞお風邪など召されませぬよう、ご自愛くださいませ。

今号は「働き者であること」についてです。4月来、東野小の子供たちの数々の素敵な姿に出会えました。その一つが、東野小の子供たちの気持ちよく働く姿です。東野の子供たちは働き者です。その様子の一部をご紹介します。



環境整備作業 互いに離れて草をとっている



日常の掃除 角にほうきをあてて



プール掃除 手足に力を込めて



プール掃除 バケツを両手にさげて



大豆の収穫 手一杯に抱えて

このような記事を読んだことがあります。「富山が金持ちの県であるゆえんは、富山県民が働き者だからと言われていました。それを代表するように富山には300年も前から伝わる「七楽の教え」という言葉があります。『楽すれば、楽が邪魔して、楽ならず、楽せぬ楽こそ、真の楽楽』楽ばかり考えている怠けものが楽かということでもない」というものです。毎日走っている人が、駅まで走ると言われても苦に感じないが、あまり動かない人はわずかの距離でも苦痛が伴う。楽をしない、働き者はその習慣がついているから働くことが苦痛でないというのが言葉の真意だと思います。子供たちはいずれ生きるために働きます。そう考えたとき、このように働くことが苦でなく、自分から、意欲的に働くことができる力は必ずや子供たちを助けてくれるでしょう。そしてなぜ東野小の子供たちがこの素晴らしい力を手に入れられたかと言えば、小さい頃から働くことは気持ちがよいと感じた経験、よく働いたことを褒めてもらえた経験が何度もあるのだと想像します。子どもたちは幸せです。年末の大掃除、ぜひ子供たちをあてにしていたくことで、よい経験を一層積み重ねていくことを願います。

東野小学校で、長い間米づくりを支援してくださっている方が先日お亡くなりになりました。働き者でおやさしい方でいらっしやるので寂しくなります。改めて感謝申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

保護者の皆様、地域の皆様には、さまざまな教育活動に対して、ご協力、ご支援をいただき感謝しております。ありがとうございました。引き続き令和5年もどうぞよろしくお願いいたします。